

2025 年度 前期・後期 授業改善アンケート集計結果に対するコメント
共通教育研究センター

センター長 鈴木 正信

共通教育研究センターが管轄している全学共通教育科目（教養科目、WRD 科目、外国語科目、IT 科目）、およびスポーツ・ウェルネス実技科目は、各学部設置されている専門科目群の枠組みを越えた内容を持つ授業科目で構成されており、本学の授業における一つの特色となっている。その内容は多彩で、受講者が学部や学年といった枠組みを越えて交流できる点も魅力であり、毎年、受講者から好評を得る科目が多く含まれている。2025 年度前期・後期授業改善アンケートの集計結果からは、両科目群の特色が大いに活かされていることが読み取れる。

まず、全学共通教育科目に関しては、全 14 項目の全てで大学全体平均とほぼ同等の高い数値が得られた。スポーツ・ウェルネス実技科目に関しては、「授業の課題の量」「1 回分の授業にあたり授業時間外の事前・事後学習のために費やした平均時間」の 2 項目を除く全 14 項目中 12 項目において、大学全体平均よりも高い数値が得られた。このことは、本科目群の授業内容が一定の教育水準を保っていることを示している。

全学共通教育科目の授業手法に関しては、「フィールドワーク」「反転授業」の 2 項目で大学全体平均よりも高い数値が、「学生によるコメントペーパー」の項目では大学全体平均よりも際だって高い数値が得られた。スポーツ・ウェルネス実技科目では、「問題解決型授業」の項目で大学全体平均よりも高い数値が、「フィールドワーク」「グループワーク」の 2 項目では大学全体平均よりも際だって高い数値が得られた。このことから、本科目群の特色として、自由度が高く多様な授業形態が実践されていることに加え、受講生による主体的な学びが一定の成果を上げており、かつ教員と受講生との交流も積極的に行われている傾向をうかがうことができる。

また、全学共通教育科目を通して「身についた資質・能力」に関しては、「構想力」「柔軟な発想力」「俯瞰力」「課題発見力」「課題解決力」「人脈形成力」「協働力」の 7 項目で、大学全体平均より高い数値が得られた。スポーツ・ウェルネス実技科目を通して「身についた資質・能力」に関しては、「柔軟な発想力」「人脈形成力」「統率力」の 3 項目で大学全体平均よりも高い数値が、「コミュニケーション能力」「協働力」の 2 項目では大学全体平均よりも際だって高い数値が得られた。これらの資質・能力は、社会に出てからも役に立つものであることから、本科目群の授業内容は大学 4 年間の学びに留まらない有効性を持ち、その継続的な履修を通して受講生がこれらの資質・能力を着実に身につけている傾向をうかがうことができる。

以上が、2025 年度前期・後期授業改善アンケートの集計結果に対するコメントである。今後も全学共通教育科目およびスポーツ・ウェルネス実技科目の特色を活かしつつ、今日の大学教育を取り巻く社会情勢も踏まえながら、各学部の枠組みを越えた分野横断型の授業科目をよりよい形で学生に提供していけるよう、検討を進めてまいりたい。

以上